

平成 30 年 8 月 30 日現在

機関番号：32636

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K03290

研究課題名(和文) 日中戦争の虚像と実像：蒋介石ら要人達の日記の多角的且つ通時的相互検証による新探索

研究課題名(英文) The untruth and truth of Sino-Japanese War: a new exploration based on the method of multi-angle and historical comparison among the diaries of the important persons of China including Chiang Kai-shek

研究代表者

鹿 錫俊 (LU, Xijun)

大東文化大学・国際関係学部・教授

研究者番号：20272784

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、蒋介石ら中国要人達の日記と関係国公文書との相互検証に基づき、公文書の制約性からくる虚像を是正すること、日中戦争期の中国の実像を復元すること、新資料を提供すること、という目的の実現を試みた。

三年にわたる研究期間において、本研究は著書、論文の出版と国際学会での発信によって、「抗日」と「防共」の優先順序をめぐる蒋介石の葛藤、対ソ認識と抗日戦堅持との関連、対ドイツ政策の変遷、戦時外交の多面相、私文書と公文書の相互検証による研究の在り方、といった一連の問題について新しい知見を提示し、学術研究の深化に寄与した。

研究成果の概要(英文)： On a basis of comparison with the diaries of the important persons including Chiang Kai-shek and relevant government documents, the research aimed to achieve the following three purposes: to correct the misunderstandings due to the limitations of government documents; to reveal the true faces of China in Sino-Japanese War; to provide new data for further researches.

During the 3-year research, by publishing monographs, papers and reporting at international conference, the researcher put forward new suggestions about the wrangling of Chiang Kai-shek over the order priority of resisting Japan and against the CPC, the relation between the perceptions toward the Soviet Union and the stand of resistance to Japan, the evolution of China's policy toward Germany, the multifaceted aspects of wartime diplomacy, and the utilization of public documents and private documents in historical research, which contributes to the development of related academic researches.

研究分野：東アジア国際政治史

キーワード：蒋介石 日中戦争 国際政治 外交 中国 日本 歴史認識 日記

1. 研究開始当初の背景

(1) 従来、日中戦争期の中国政治外交についての研究は、主として中国当局の公文書に依拠していた。しかし、公文書には、政策の決定を司る指導者の内面が反映されていないこと、世論や内外の情勢を配慮した虚構が含まれていること、という制約がある。これは不都合な面の隠匿に止まらず、戦績と損失に関する集計などにも影響を及ぼす。そのため、公文書のみには依拠した研究は中国の指導者の表面的な姿勢を明らかにすることができても、その背後にある彼らの思惑や動機を十分に把握できなかった。

(2) 2006 年から、国民党政権時代の中国の最高指導者である蒋介石が 57 年間にわたって書き続けた日記が、スタンフォード大学フーバー研究所で閲覧可能となった。これを背景に、蒋介石日記を利用した論著が公表されはじめた。こうした成果は研究の進展を示しているものの、日中戦争の深層への考察は依然として不十分な状態にある。その原因は次の 2 点にある。すなわち、蒋介石以外、他の要人の日記も数多く公開されているため、同じ事象に対する蒋介石日記の叙述と他の要人の日記の叙述を照合すれば、史実を多角的に再現できる。さらに、こうした私文書を公文書と照合すれば、史実を公・私両面の視角から立体的に分析できる。しかし現状では、こうした私文書同士の照合と、私文書と公文書との多角的相互検証は非常に不十分であった。蒋介石の日記は勿論、他の要人の日記の多くも戦前・戦中・戦後をまたいで中国の内情と日中関係の変化を記録している。これによって、それぞれの出来事についての事実関係の解明だけでなく、対日問題をめぐる中国当局の戦前の判断から、戦中の対応、戦後の反芻に及ぶ系統的な検証も可能である。しかし、現状ではこうした通時的検証が欠如していた。

2. 研究の目的

上記の現状に鑑みて、本研究は蒋介石ら中国要人達の日記の多角的且つ通時的相互検証を重視し、下記の諸点を目的とした。

(1) 蒋介石ら要人達の当事者としての証言に基づき、従来の政治的配慮と公文書の制約性ゆえに取り残された日中戦争の虚像にメスを入れ、より事実面に即した新たな解釈を提示すること。

(2) 表と裏、公と私、建前と本音に通底するものを発見し、また、政治、外交という従来重視されてきた視点に、軍事、社会、心理などの視点を加え、日中戦争期の中国政治の深層を包括的に再検証し、その実像を立体化すること。

(3) 私文書と公文書の照合による研究の新しい在り方を模索するとともに、蒋介石ら要人達の日記に対する学術的な分析と評価を行ない、その中身の紹介を通して、資料の面において学術研究に寄与すること。

3. 研究の方法

(1) 私文書と公文書の調査・収集・検証を本研究のデータ・ベースとして蓄積する。そのため、蒋介石日記など未公刊の資料の抄録をはじめ、他の要人達の私文書の収集と諸関係国の公文書の発掘を同時進行的に行う。また、分析対象の案件進行中の記録に止まらず、その事前と事後を含む全過程にわたって継続的な検証を行う。

(2) 蒋介石日記などの要人達の私文書の内容と、公電や会議録を含む中国側の公文書、日本側の公文書、第三国の公文書との相互照合を行う。

(3) 上記の基礎作業に基づいて、戦前・戦中の対日政策への蒋介石ら要人達の自己評価を究明するとともに、ケーススタディーによって重要な歴史的事件を再検討する。また、日中戦争と米・ソ・独という三カ国との相互関連を包括的に再考察することに

よって、日中戦争中の多国間関係に対する新しい知見を提示する。

4. 研究成果

(1) 一次資料の収集と分析は基礎作業であるため、本研究は三年にわたる期間において、日本と中国大陸での調査とともに、スタンフォード大学、コロンビア大学、米国議会図書館、米国国立公文書記録管理局分館、台湾中央研究院近代史研究所、中国国民党党史館などでの資料収集に努めた。よって蒋介石、孔祥熙、陳布雷、張嘉傲、黄郛らの私文書と、国民政府および中国国民党、中国共産党の資料、旧日本陸海軍の資料、日中戦争関連の新聞・雑誌資料等を数多く集め、分析した。また、出版されている王世杰、徐永昌、馮玉祥、陳誠、周仏海、肖軍、陳克文、胡宗南、吉星文ら要人の日記を丁寧に解読した。

(2) 上記の基礎作業に基づいて、単著書『蒋介石の「国際的解決」戦略（1937 - 1941）：「蒋介石日記」から見る日中戦争の深層』と共著書『近代中日関係史新論』、『日中戦争とは何だったのか』を出版したうえ、「蒋介石の対ソ葛藤と抗日決断」、「日中戦争長期化の政策決定過程におけるソ連要因の虚実 蒋介石らの私文書に基づく中国側の対応の考察を中心に」、「抗日戦争史をめぐる中国の歴史認識問題 扱われ方の変遷とその影響に着目して」などの論文を学術誌に公表した。

(3) 論著の掲載とともに、下記の国際学会等で成果を積極的に発信し、学术交流に寄与した。「戦争の歴史と記憶」国際シンポジウム（2015年7月、台北）「近代中日関係の多面相」国際シンポジウム（2015年8月、台北）「抗日戦争勝利70周年記念」国際シンポジウム（2015年9月、北京）「中日戦争衝撃下のアジア」国際シンポジウム（2015年12月、台北）現代中国学会第66回全国学術大会（2016年10月、藤澤）

日本国際政治学会創立60周年研究大会（2016年10月、幕張）「和解への道 日中戦争の再検討」国際シンポジウム（2016年12月、東京） 偕行社近現代史シンポジウム「日中戦争の指導者：蒋介石・毛沢東・汪兆銘」（2017年2月、東京）「全面抗戦勃発80周年記念」国際シンポジウム（2017年7月、北京）、「抗日戦争史研究の新趨向」国際シンポジウム（2017年9月、上海）、第2回「和解への道 日中戦争の再検討」国際シンポジウム（2017年9月、台北）、偕行社近現代史シンポジウム「日中戦争とはなんであつたか その真相に迫る」（2018年2月、東京）。また、海外の学者を招聘して、大東文化大学でワークショップと講演会を開催した。

(4) 本研究は、日中戦争終戦70周年の2015年に開始し、日中戦争開戦80周年の2017年に最終年度を迎えた。こうした節目の時代を背景に、日中戦争の再検討をテーマとした本研究の成果は学界の注目を浴び、マスコミの取材も受けた。全般で言うと、本研究は特に「抗日」と「防共」の優先順序をめぐる蒋介石の葛藤、対ソ認識と抗日戦発動、和平問題対応との関連、中国の「国際的解決」戦略の修正と展開過程、国民政府の対ドイツ政策の変遷とそれに見た戦時外交の多面相、紛争解決方針をめぐる日中両国の相克、戦後処理と在留日本人の対応、私文書と公文書の相互検証による研究の在り方、現代中国における日中戦争史認識の変遷過程、といった諸問題について新しい知見を提示し、学術研究の深化に貢献した。また、それと同時に、本人の論著を含む学界の旧説に対して、要人達の日記という従来と違う視角および資料から修正と補足を加えた点としても意義があると思われる。

(5) 本研究で入手した資料と築いた基礎と比べると、研究の更なる進展の可能性はまだ大きく残っている。この可能性に見合うよ

う、今後、特に日中戦争期の日本と中国共産党との相互関係に焦点を照準して、探索を継続していきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

鹿錫俊、「陳立夫訪ソをめぐる日中ソ関係史の謎解き 秘密はなぜ漏洩したのか、日本はなぜ柔軟に対応したのか」、北東アジア研究、査読有、29、2018、37-52頁。

鹿錫俊、「日中戦争長期化の政策決定過程におけるソ連要因の虚実 蒋介石らの私文書に基づく中国側の対応を中心に」、軍事史学、査読有、53 2、2017、51-76頁。

鹿錫俊、「抗日戦争史をめぐる中国の歴史認識問題 扱われ方の変遷とその影響に着目して」、国際政治、査読有、187、2017、62-79頁。

鹿錫俊、「我對蒋介石研究的思考与探索」、澳門理工学报、査読無、20-1、2017、200-203頁。

鹿錫俊、「蒋介石的對蘇糾結與抗日決断(1936-1937)」、抗日戦争研究、査読有、97、2015、4-19頁。

[学会発表](計12件)

鹿錫俊、「講和か抗日戦堅持か 国民政府の葛藤とその自然消滅」、偕行社近現代史シンポジウム「日中戦争とはなんであつたか その真相に迫る」、2018年2月。

鹿錫俊、「蒋介石與歐戰以後中國對德政策的四個節點」、(台北)第2回「和解への道 日中戦争の再検討」国際シンポジウム(国際学会)、2017年9月。

鹿錫俊、「對蘇考量与国民政府的和戦抉擇」、(上海)「抗日戦争史研究の新趨向」国際シンポジウム(国際学会)、2017年9月。

鹿錫俊、「西安事変後、国民政府の容共抗日に対する日本の阻止と促成」、(北京)「全面抗戦勃発80周年記念」国際シンポジウム(国際学会)、2017年7月。

鹿錫俊、「蒋介石の視角からみる“コミンテルン陰謀論”の真偽」、偕行社近現代史シンポジウム「日中戦争の指導者：蒋介石・毛沢東・汪兆銘」、2017年2月。

鹿錫俊、「ドイツ調停をめぐる日中ソの攻防」、「和解への道 日中戦争の再検討」国際シンポジウム(国際学会)、2016年12月。

鹿錫俊、「日中戦争長期化の形成過程におけるソ連要因 中国要人の私文書に基づく再検討」、日本国際政治学会創立60周年研究大会、2016年10月。

鹿錫俊、「中国における日中戦争(抗日戦争)の捉え方 大陸と台湾の歴史展示の比較を踏まえて」、現代中国学会第66回全国学術大会、2016年10月。

鹿錫俊、「中国問題をめぐる日本の対応と蒋介石の反応：日米交渉の事例から見る戦争拡大の主要因」、(台北)「中日戦争衝撃下のアジア」国際シンポジウム(国際学会)、2015年12月。

鹿錫俊、「從日本當政者的糾結看中日戦争爆發的心理因素」、(北京)「抗日戦争勝利70周年記念」国際シンポジウム(国際学会)、2015年9月。

鹿錫俊、「夾縫中的抉擇：蒋介石處理對日對蘇關係的曲折歷程」、(台北)「近代中日關係的多重面相」(国際学会)、2015年8月。

鹿錫俊、「蒋介石的對蘇考量與對日抗戰的發動(1936-1937)」、(台北)「戦争の歴史と記憶」国際シンポジウム(国際学会)、2015年7月。

[図書](計4件)

黄自進、劉建輝、戸部良一、波多野澄雄、鹿錫俊等13名(共著)、ミネルヴァ書房、『日中戦争とは何だったのか』、2017、357-383頁。

戸部良一、波多野澄雄、鹿錫俊等18名(共著)、稻郷出版社、『近代日中關係史新論』、2017、207-254頁。

鹿錫俊(単著)、東方書店、『蒋介石の國際的解決戰略(1937-1941):「蒋介石日記」から見る日中戦争の深層』、2016、全324頁。

吉田裕、伊香俊哉、鹿錫俊等多数(共著)、吉川弘文館、『アジア・太平洋戦争辞典』、2015、関係項目16項の執筆。

[その他]

(1) Phoenix Satellite Television Co. Ltd (香港鳳凰衛視)による取材、2018年3月2日、於大東文化会館。

(2) NHK大型企画開発センターによる取材、2018年1月25日、於大東文化大学鹿研

究室。

(3) NHKエデュケーショナルによる取材、
2017年3月4日、於大東文化大学鹿研究室。

(4) ホームページ

[http://gyouseki.jm.daito.ac.jp/dbuhp/KgApp?kyoinId=ymkkg
ygsggy](http://gyouseki.jm.daito.ac.jp/dbuhp/KgApp?kyoinId=ymkkg
ygsggy) (教員情報検索 研究業績)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鹿 錫俊 (LU, Xijun)

大東文化大学・国際関係学部・教授

研究者番号：20272784

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者